医療介護専用SNS を活用した多職種連携の実際

～地域包括ケア実現のために～

なぜ、多職種連携に医療介護専用SNSが最適なのか

長島整形外科　院長

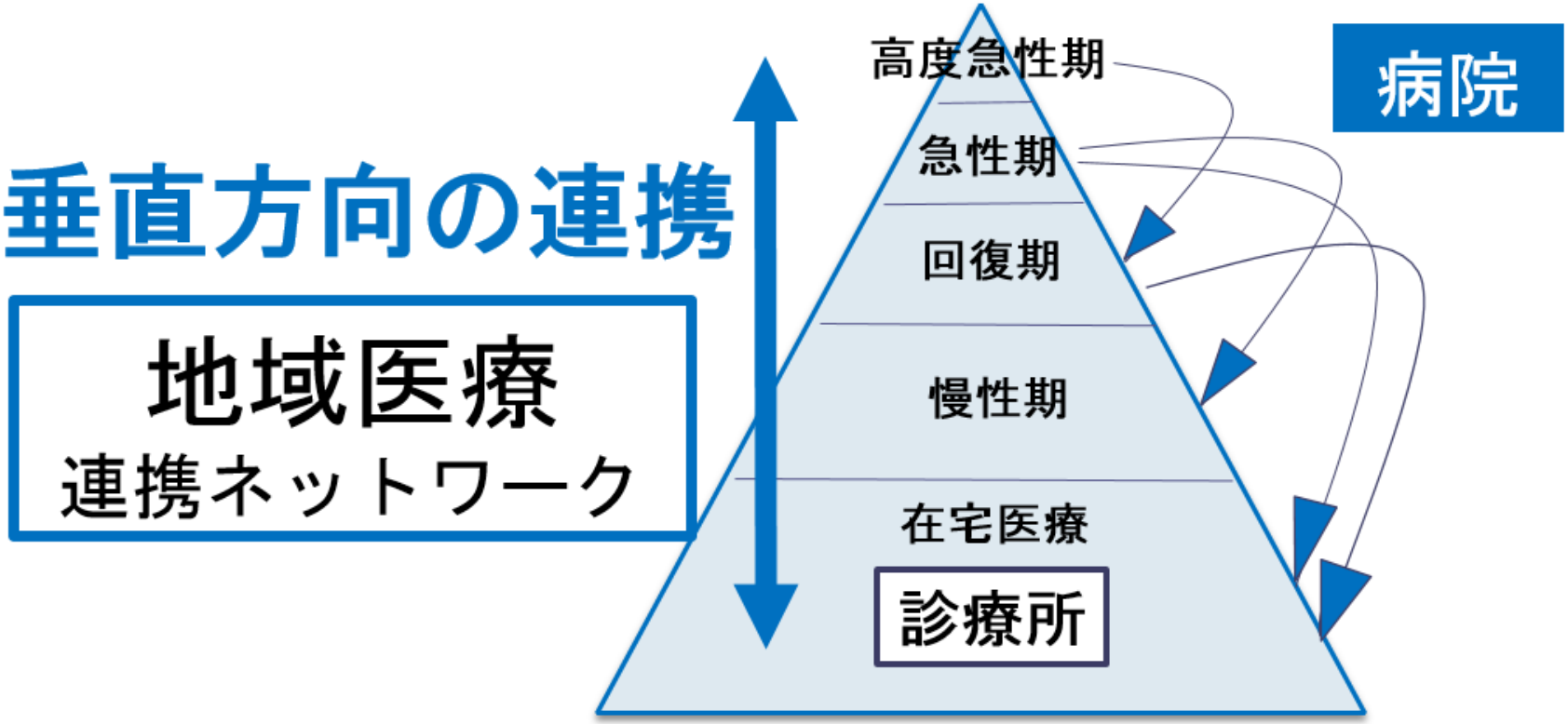
長島 公之

NHKテレビニュース
おはよう日本（首都圏版）

2015年4月15日

地域医療構想

病床の機能分化と連携



医療連携

電子カルテ記録　閲覧型

340以上の
診療所・病院

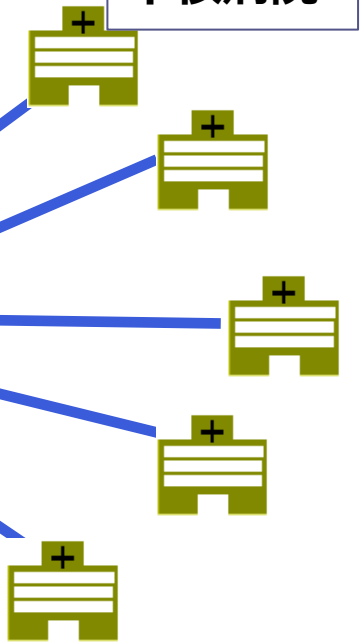
電子カルテ内容の閲覧

24の
中核病院

なるほど！

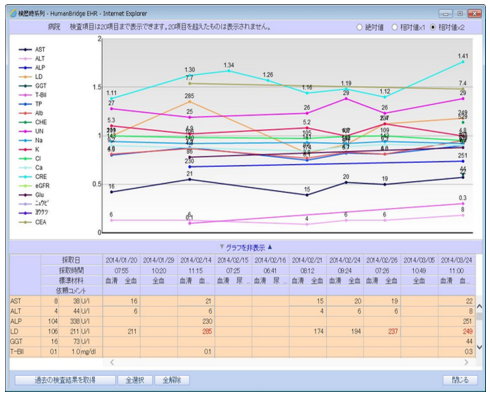
約1万５千人の患者情報共有

とちまる
ネット



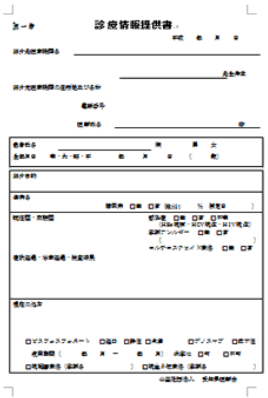
薬剤

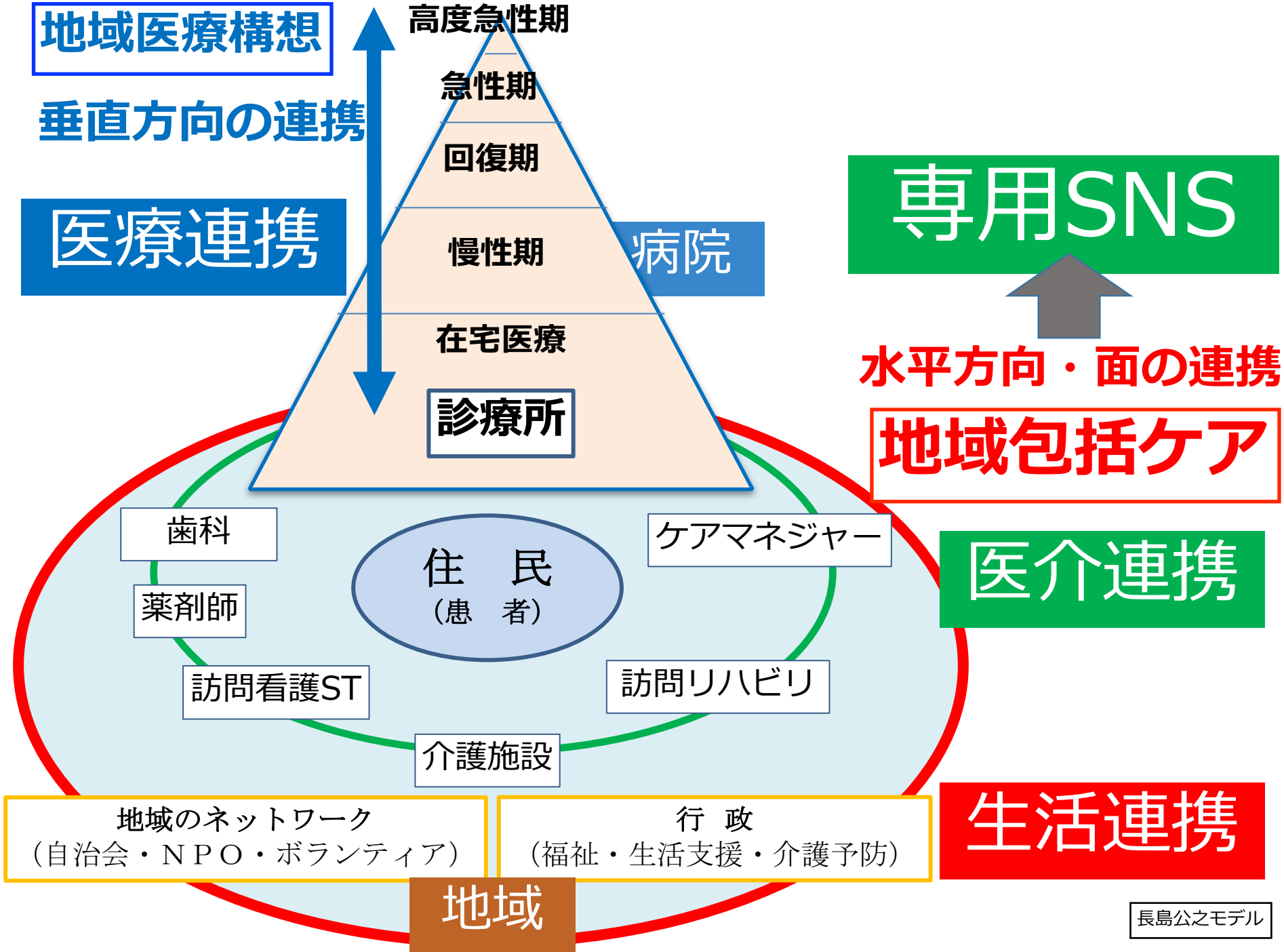
検査



画像

文書




地域医療構想
垂直方向の連携
医療連携
高度急性期
急性期
回復期
慢性期
在宅医療
病院
診療所
専用SNS
水平方向・面の連携
地域包括ケア
医介連携
歯科
薬剤師
訪問看護ST
住　民
（患　者）
ケアマネジャー
訪問リハビリ
介護施設
地域のネットワーク
（自治会・ＮＰＯ・ボランティア）
行　政
（福祉・生活支援・介護予防）
生活連携
地域
長島公之モデル

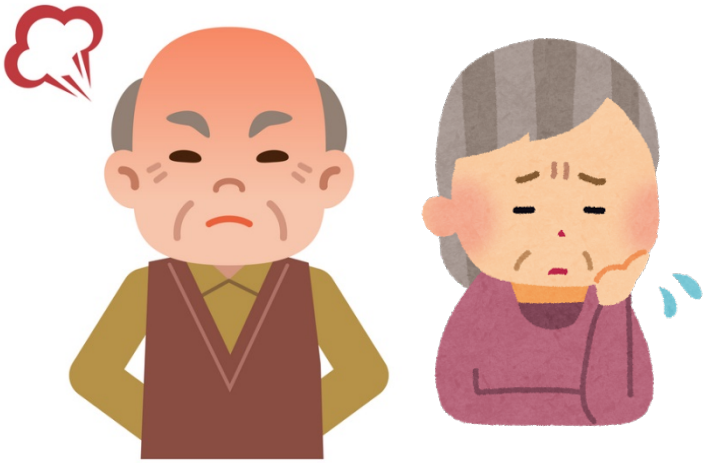
医介連携（多職種連携）

コミュニケーション（やりとり）

問題

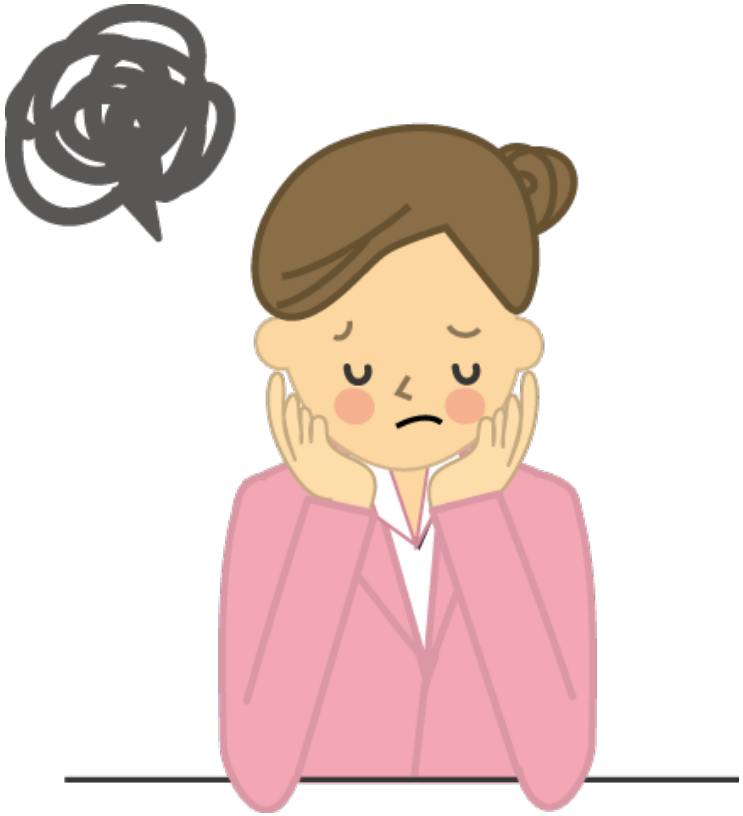
褥瘡

痛み



心

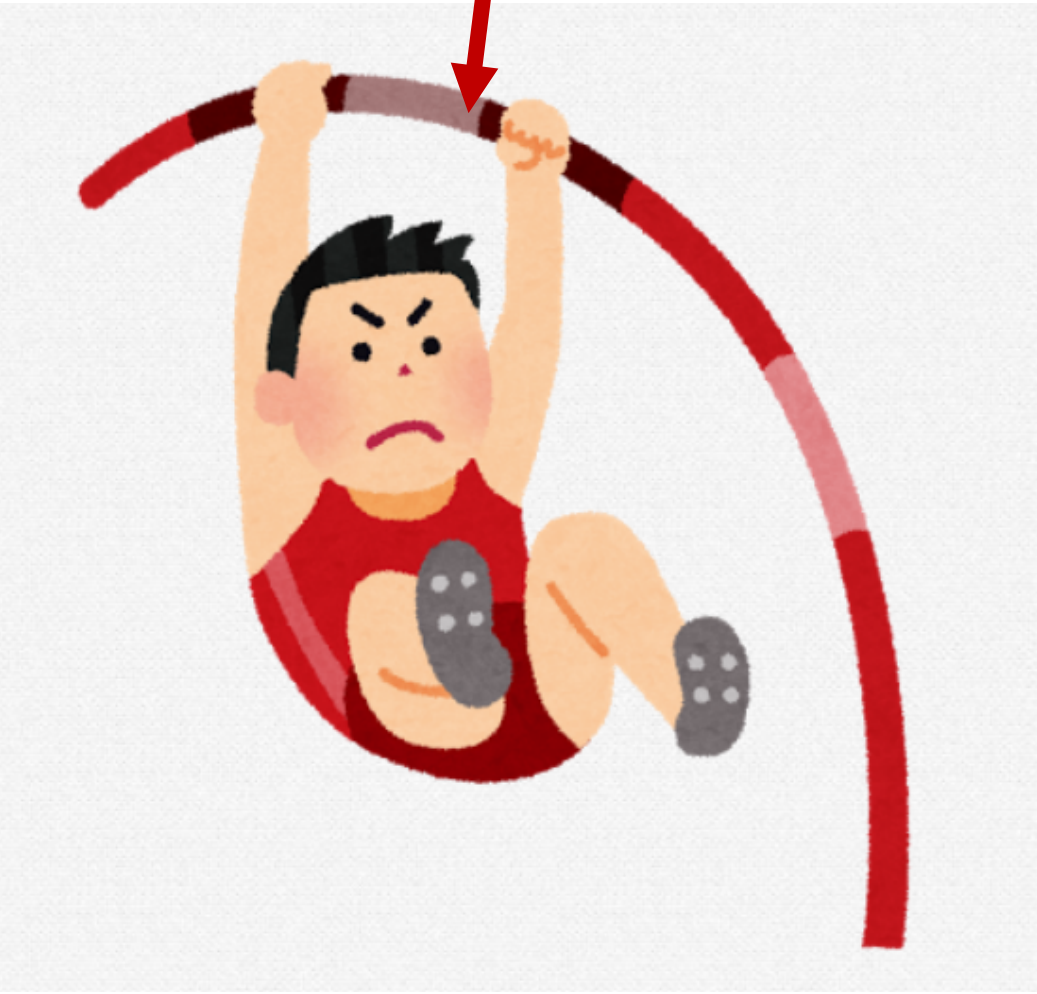
一人で悩まない



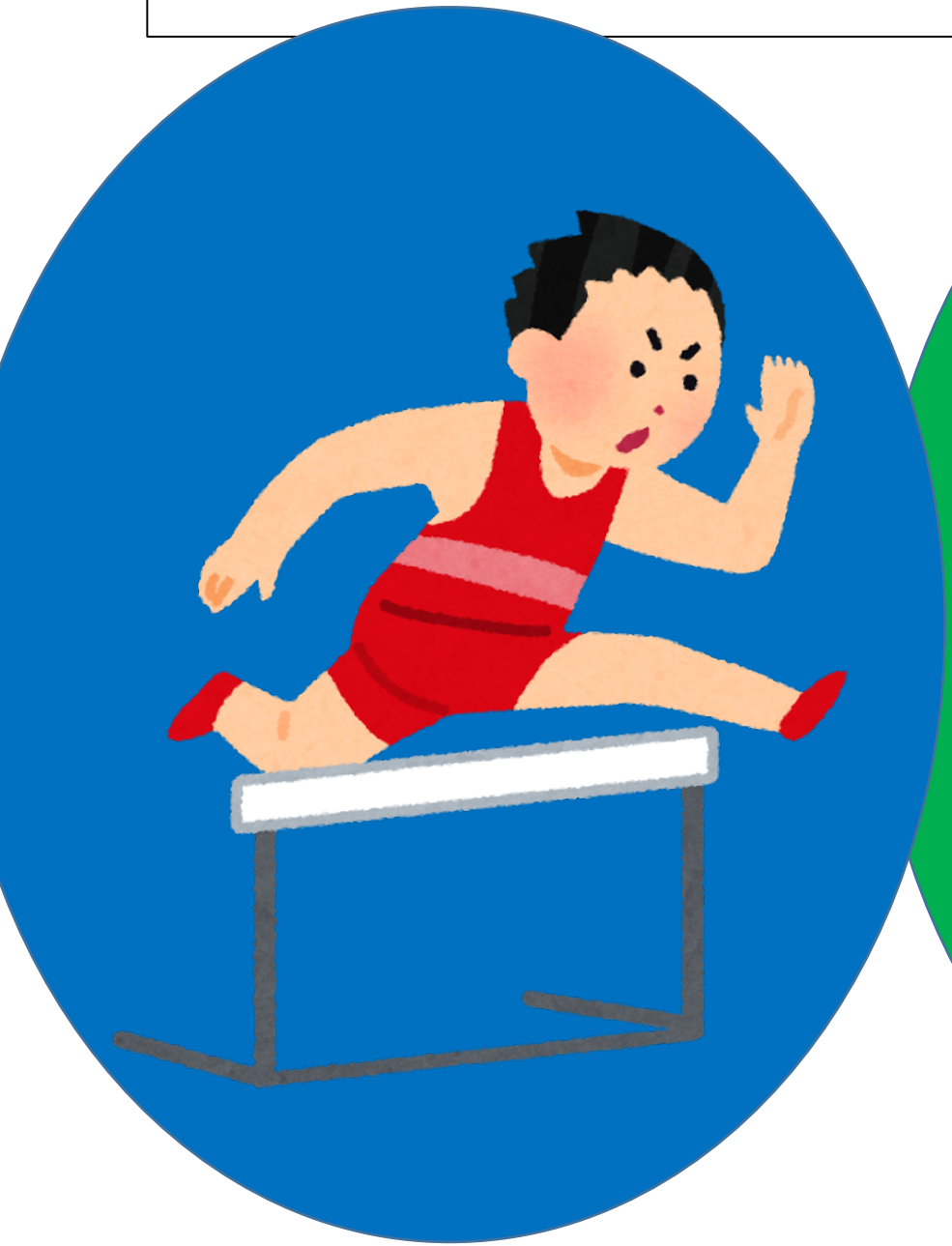
医介連携（多職種連携）

みんなで考え、支える

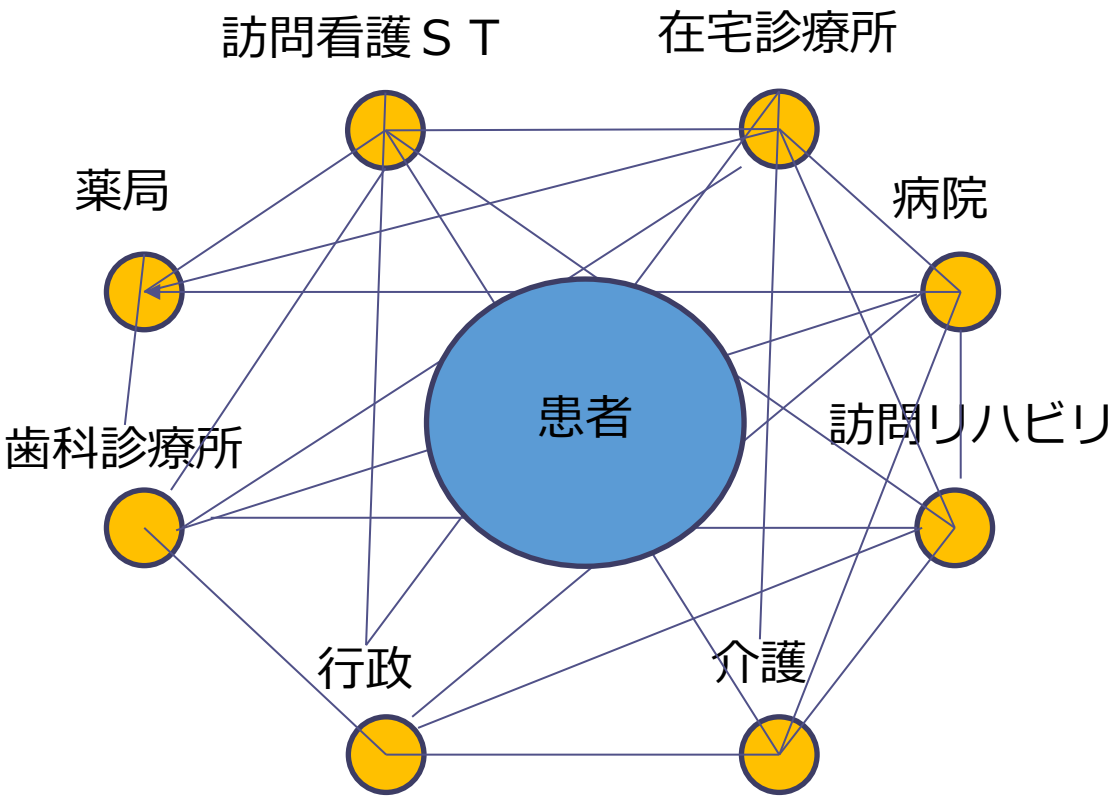
補助具＝ICT



医介連携のハードル



医介連携（多職種連携）のハードル



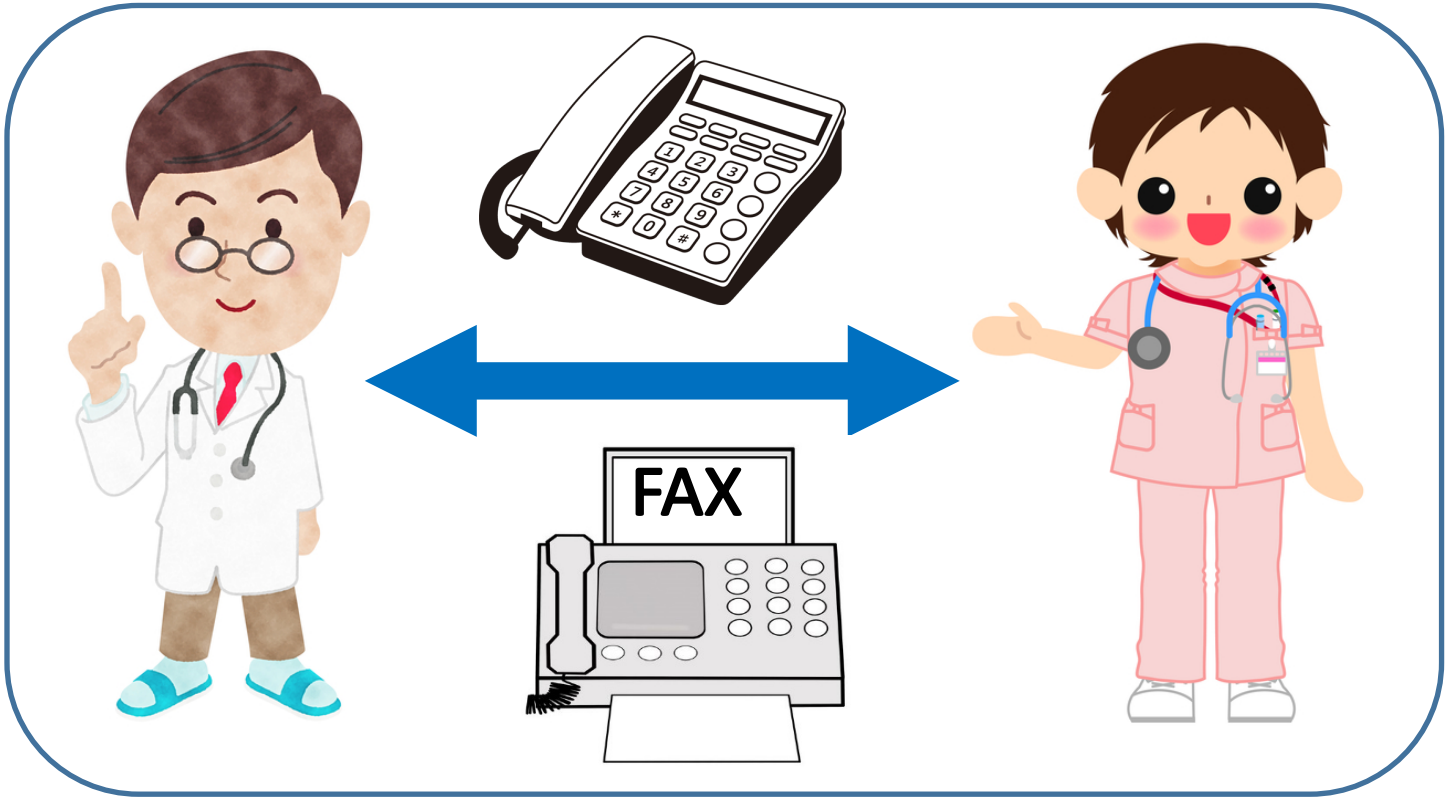
バラバラ

- 場所
- 時間
- 記録

●移動・多忙

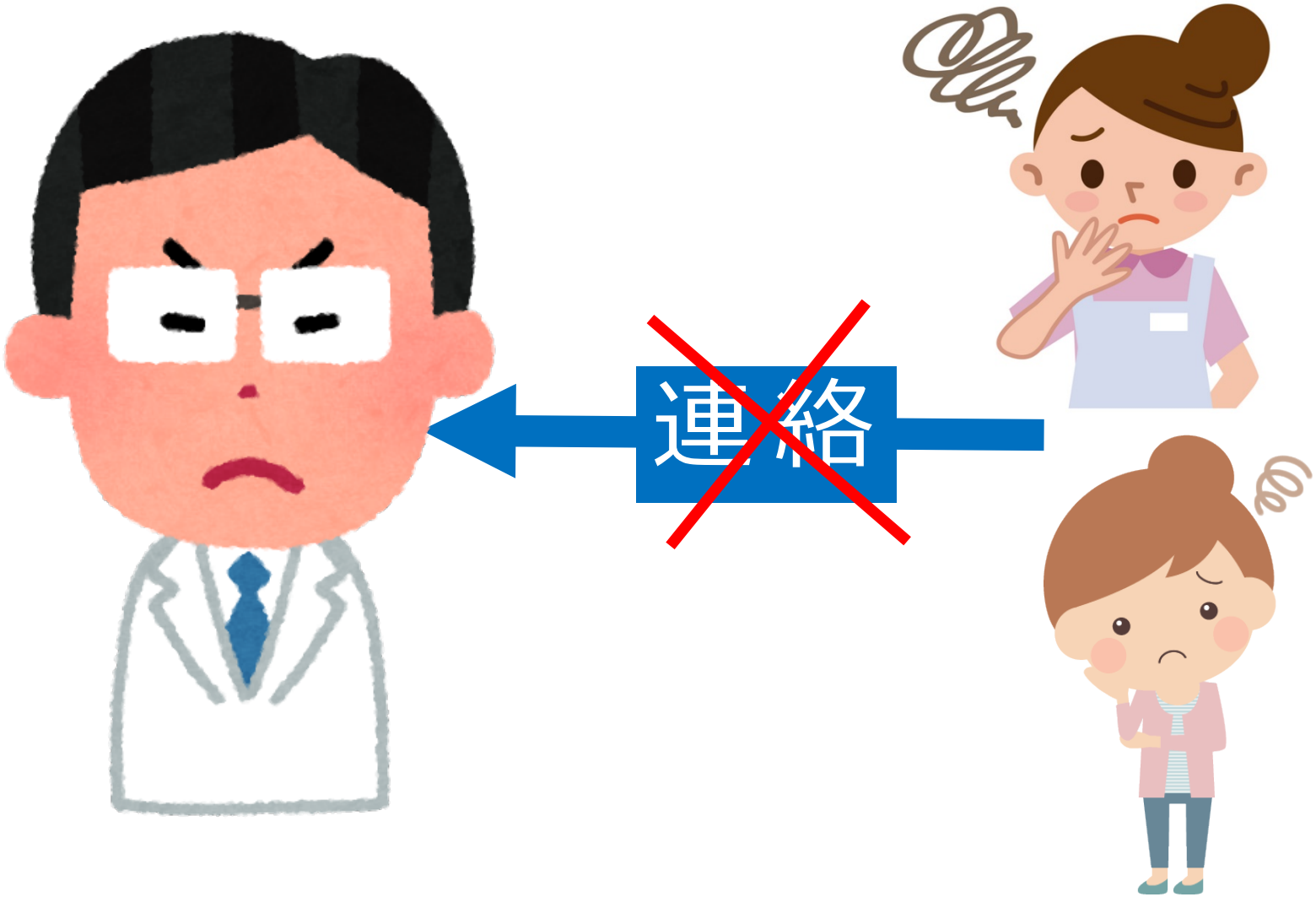
→ いつでも・どこでも

1対1のやりとり

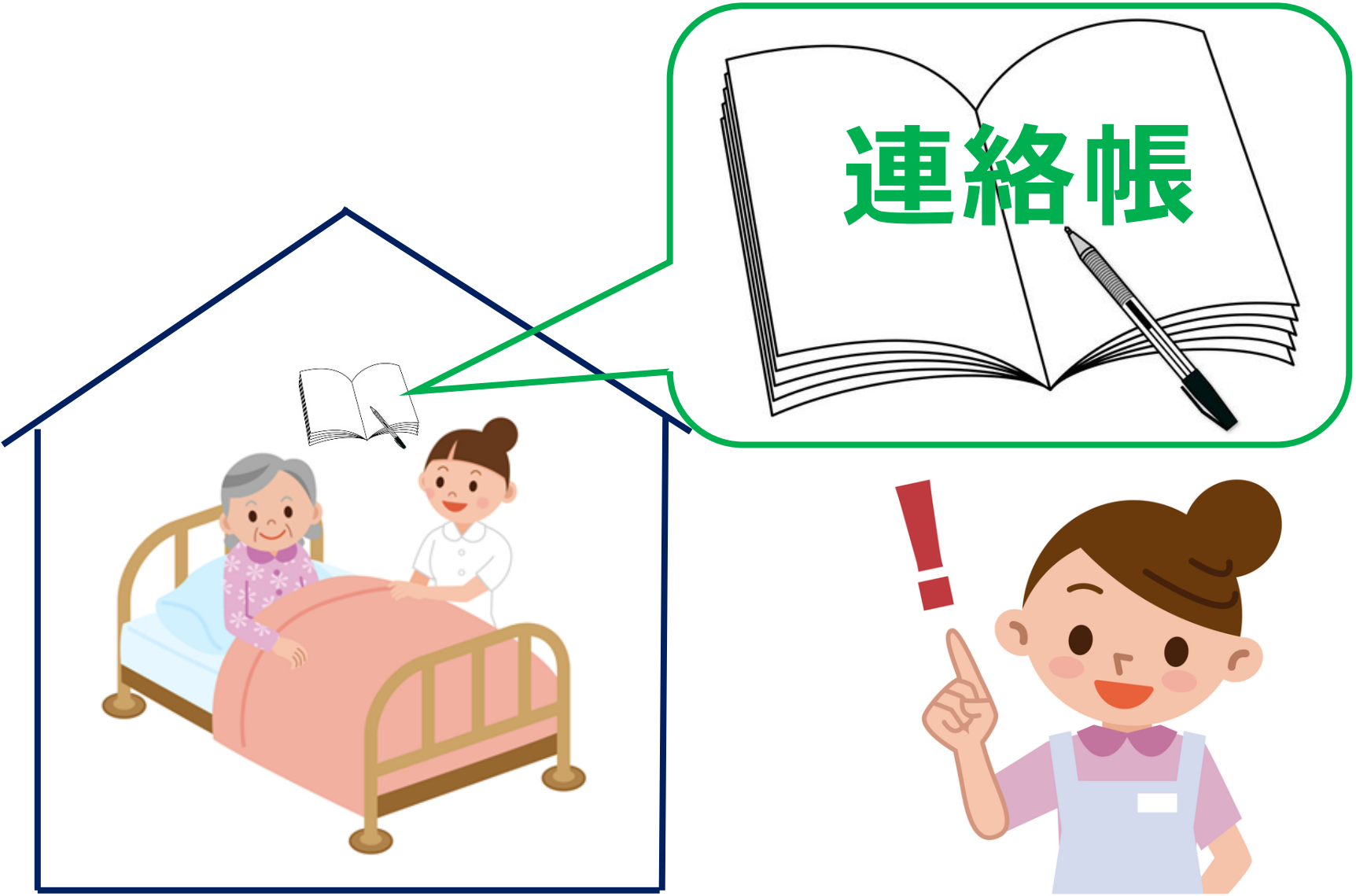


伝わらない

医師への気兼ね・気後れ



みんなに伝わる・気兼ねなし

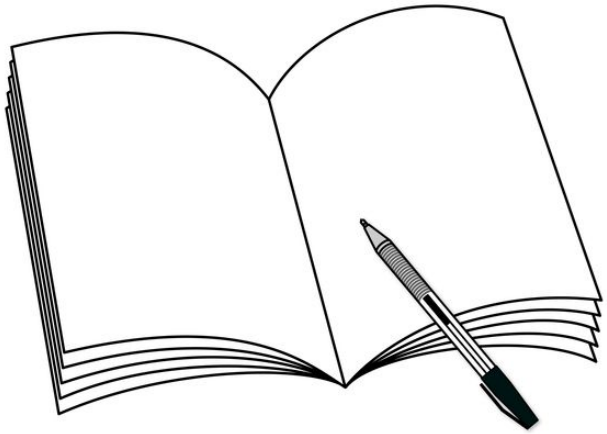


時間・場所・記録

どこでもドア＝ICT

どこでも　いつでも　読み書きできる

ICT連絡帳



文化・ことばの違い

記録閲覧だけ→丸投げ・垂れ流し

コミュニケーションが必須

なぜ、医療介護専用SNSが最適なのか

SNS：コミュニケーションに特化

→医介連携に向いている

公開型SNS（Line、Facebookなど）

危険（情報漏洩・なりすまし）

⇒ 安全 専用SNS

いつでも、どこでも、安全に
コミュニケーションできる
医療介護専用SNSが最適

顔の見える関係を基盤に
電話・FAX・面会・会議を
補完・補強する

普及・継続のハードル

難しい・高コスト→広がらない、続かない

⇒ ・簡単・低コスト

システムがバラバラ→地域でつながらない

⇒
- 広域で統一
- 他の地域でも使える
- 他のシステムとつながる

完全非公開型 医療介護専用SNS

MedicalCareStation
メディカルケアステーション

1）操作：SNS　LINEより簡単

2）導入費・維持費：無料　０円

3）セキュリティ：招待・承認制、暗号化、**三省GL準拠**

4）写真・動画・ファイルの添付が簡単

5）タブレット端末・スマホでも利用可能

6）他のアプリ・システムとの連携を前提に開発

7）特別な機器やアプリ不要

8）他の医師会での利用実績

9）停電でも使える、データが栃木県以外のサーバーに

１０）他の地域のユーザーと情報交換

栃木県　平成26年から

MCSを県統一システムに採用

栃木県統一　医介連携ネットワーク

どこでも連絡帳

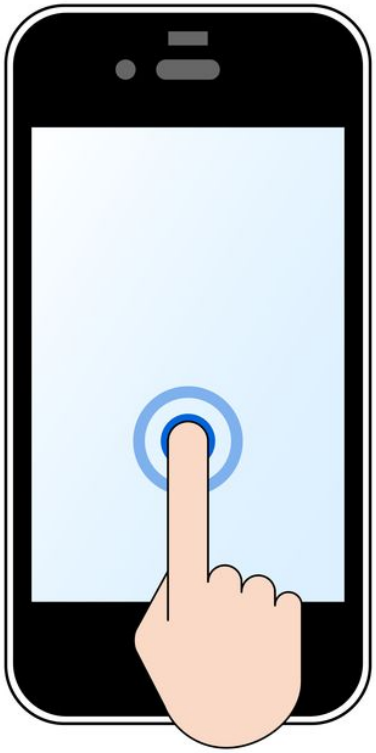
在宅＊医療
MOTTO ZAITAKU IRYO

多職種	2607　名
施設	1707　施設
患者	1640　名
書き込み	毎月　4000回以上

2017年
8月末

必要なもの

インターネットにつながる



スマホ
タブレット

PC

導入・維持費用：０円

手ぶらでスキー！

利用者・運営側（医師会・自治体など）
何も準備しなくて良い
すぐに始められる

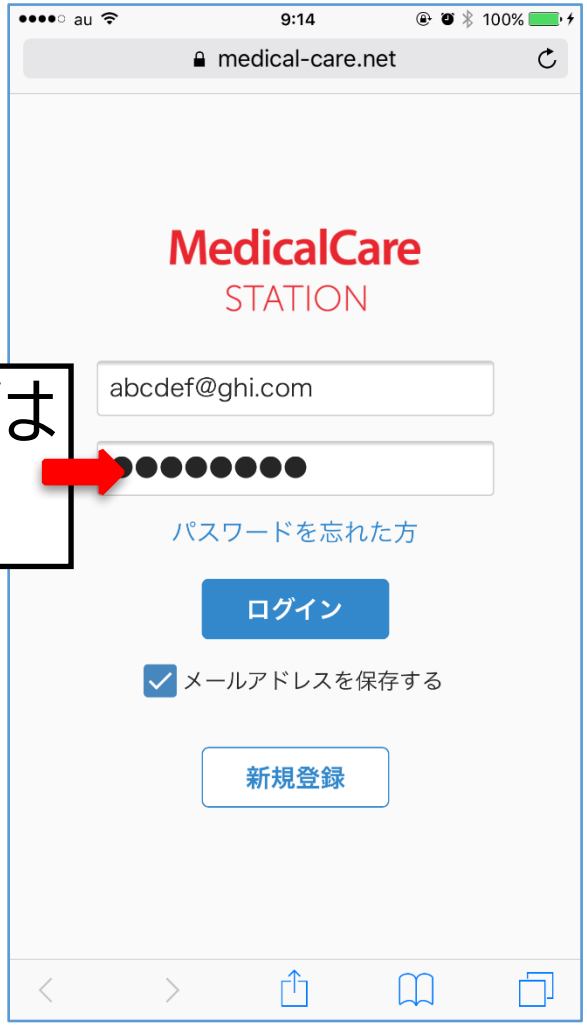
MCSのホームページ　ログイン

https://www.medical-care.net/

ログイン

PC

パスワードは
保存しない



iPhone

3つの連携方法

1）患者タイムライン　2）グループ　3）つながり

PC

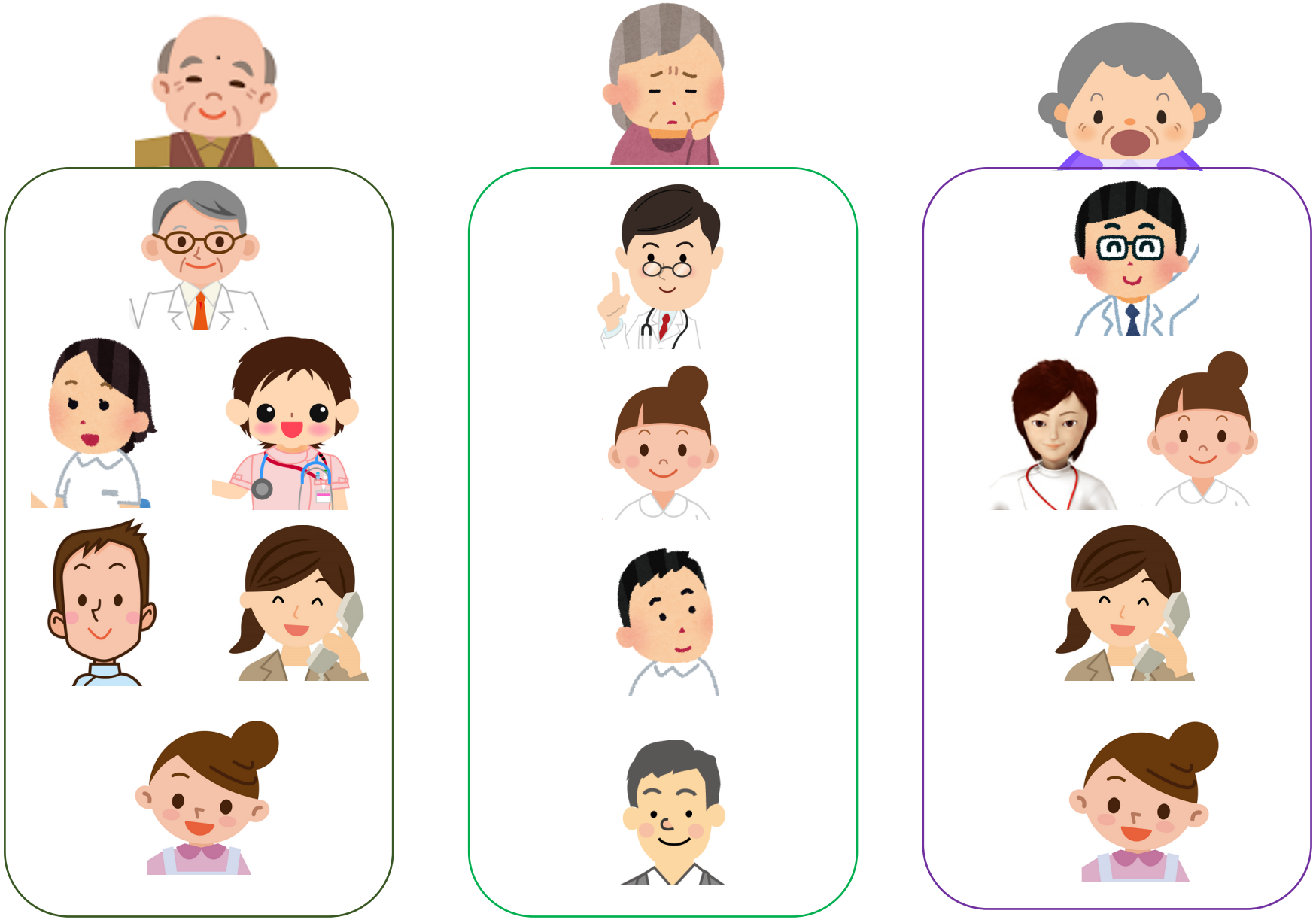
iPhone

患者リスト　参加が許可された患者一覧

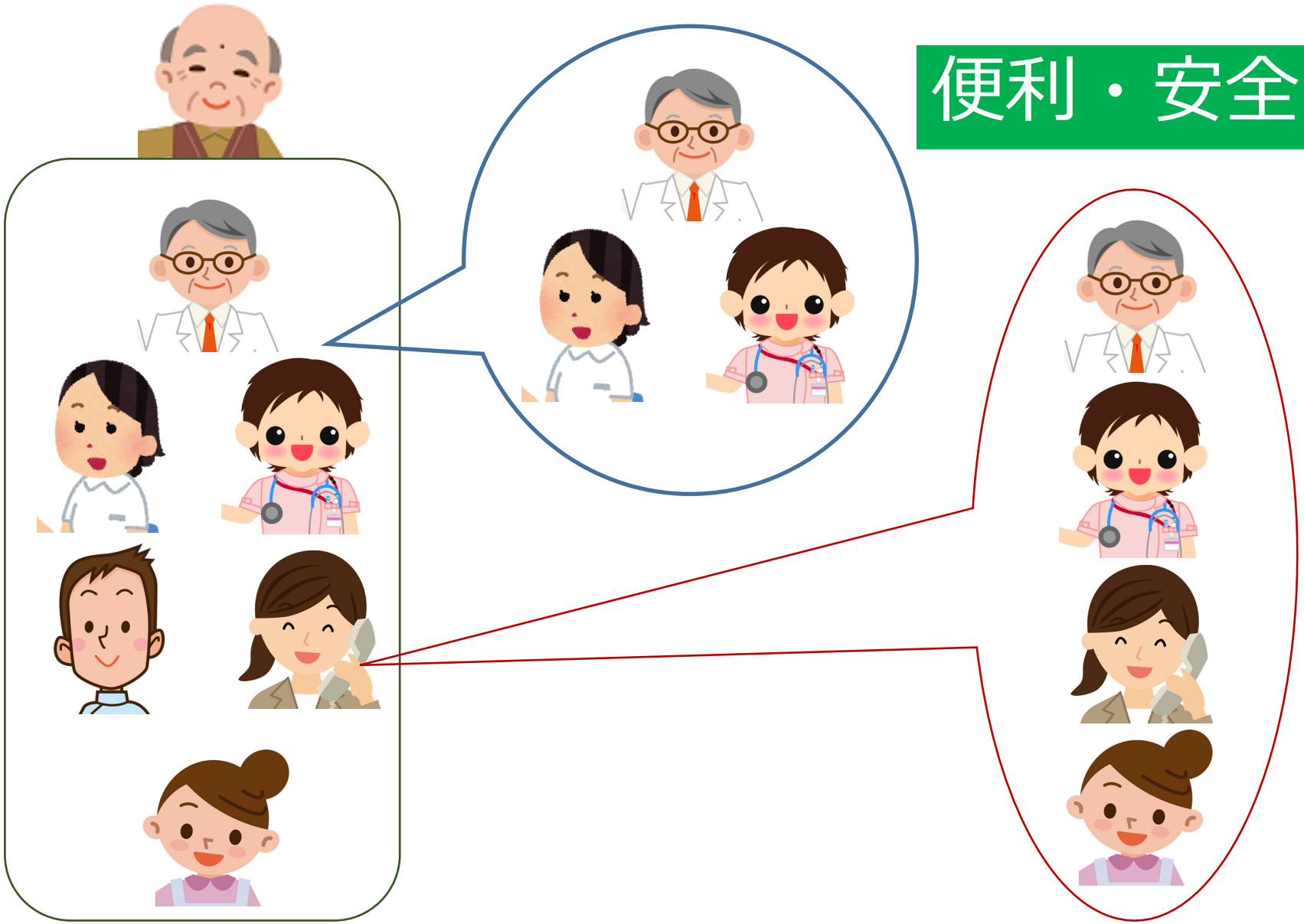
書き込みが
新しい順に
上から並ぶ

未読
オレンジ色

患者ごとのチーム作り＝招待



メンバー絞り込み　小部屋



患者タイムライン

患者

参加者一覧

送信者

情報：端末には保存されない

患者タイムラインに添付可能なファイル

いつでも 四郎
看護師（長島整形外科）

本日訪問時の仙骨部褥瘡の写真です。前回と変化ありませんでした。

褥瘡の写真

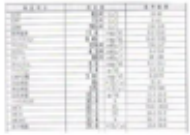
どこでも 三郎
医師（どこでもクリニック）

胸部Ｘ線では、異常ありませんでした。

Ｘ線画像

どこでも 三郎
医師（どこでもクリニック）

血液検査結果です。腎機能に問題ありませんでした。



紙の資料

どこでも 三郎
医師（どこでもクリニック）

本日の訪問リハビリのビデオです。

capturedvideo.MOV

ビデオ・音声
ファイル

ケア マネオ
介護支援専門員・ケアマネジャー

サービス担当者会議録のワード・ファイルです。

XX月XX日サービス会議録.docx

ワード・エクセル
PDF等のファイル

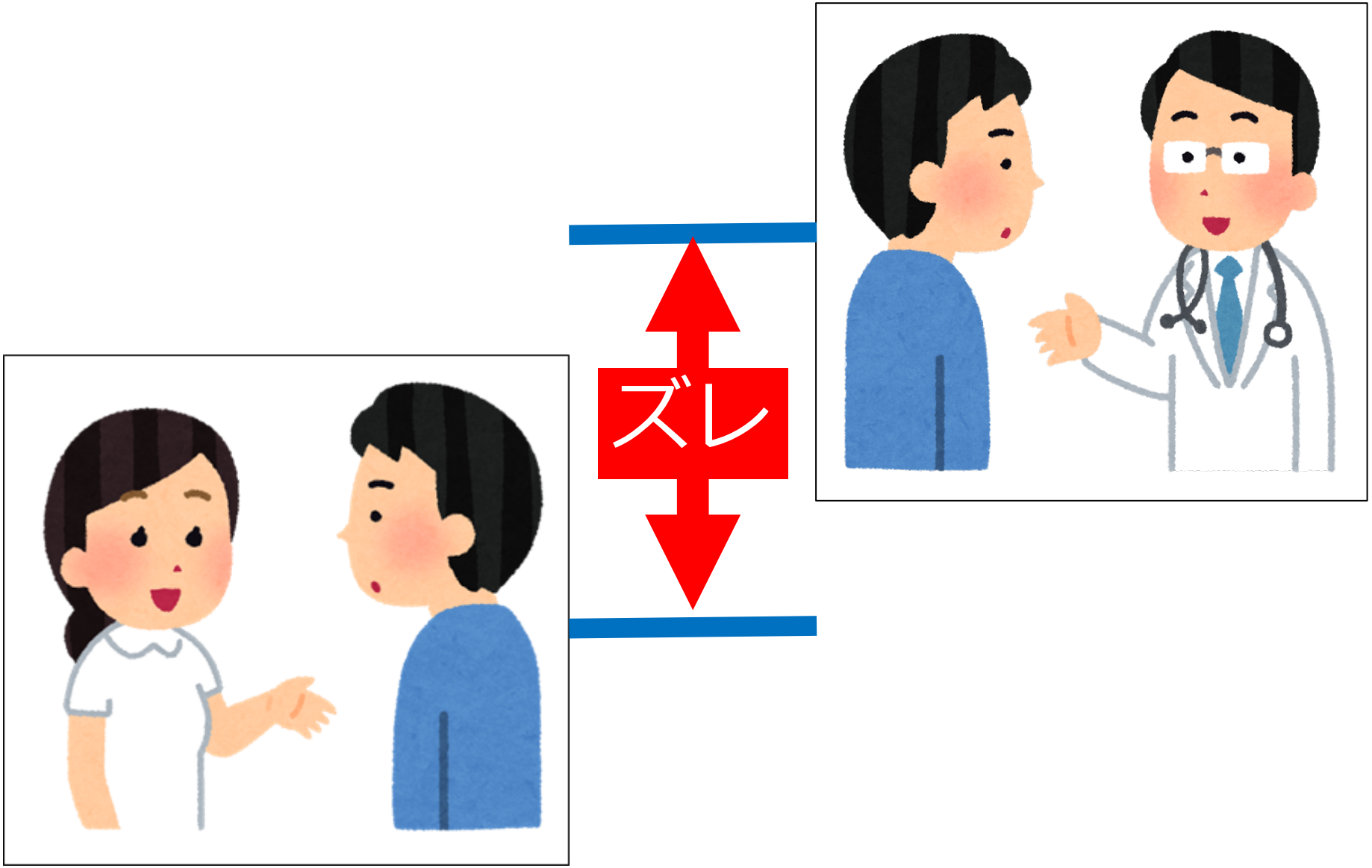
文章で書く

患者の状態・ケアの内容

患者の体調

患者・家族の気持ち

患者・家族への説明・反応



看取り後の振り返り

写真

画像をクリック
拡大表示

どこでも 三郎
医師

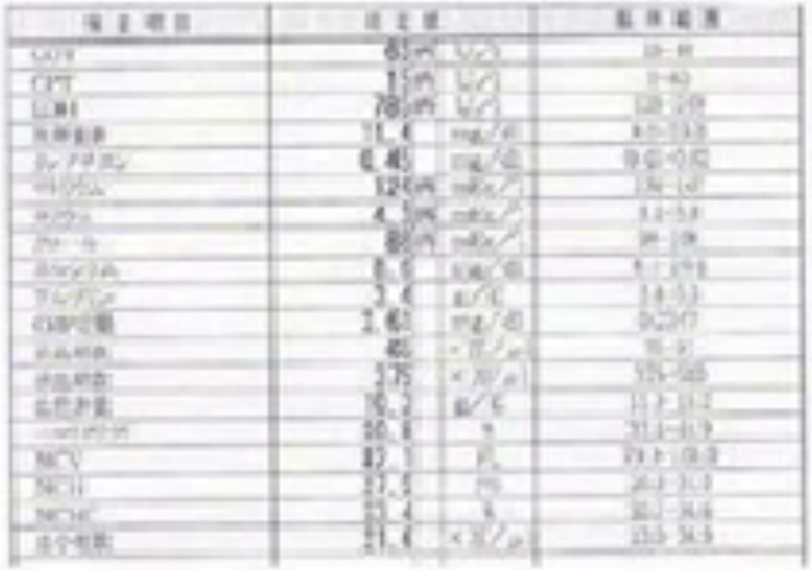
胸部X線では、異常ありませんでした。

4人

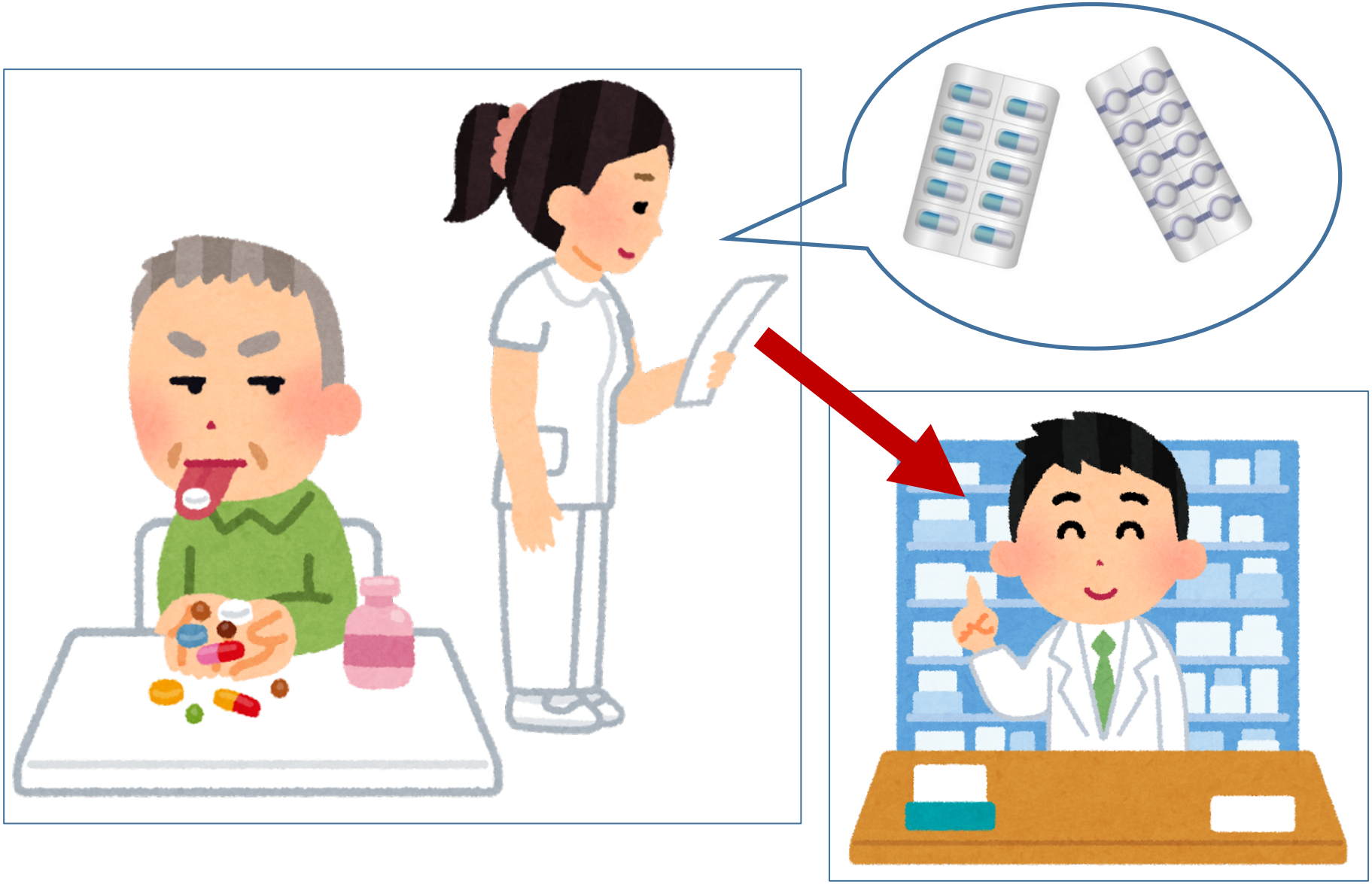
どこでも 三郎

医師

血液検査結果です。腎機能に問題ありませんでした。



服薬状況



ビデオ

リハビリ

口腔内ケア

スケジュール調整

ケア マネオ
介護支援専門員・ケアマネジャー（施設名未設定）

1/17 09:35

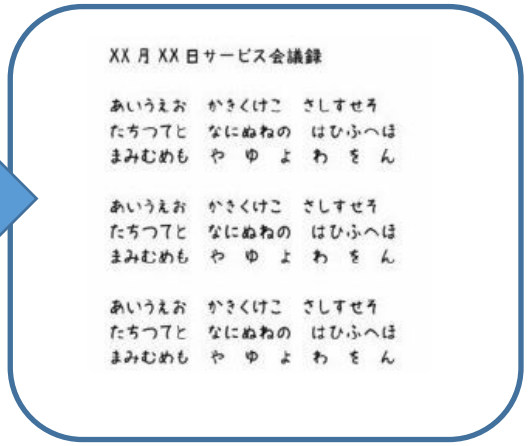
サービス担当者会議をＸＸ日14時から、ご自宅で開きたいと思います。出席可能な方は了解ボタンを押してください。

3人

ケア マネオ
介護支援専門員・ケアマネジャー（施設名未設定）

サービス担当者会議録（手書き）の写真です。

手書き



XX 月 XX 日サービス会議録

あいうえお　かきくけこ　さしすせそ
たちつてと　なにぬねの　はひふへほ
まみむめも　や　ゆ　よ　わ　を　ん

あいうえお　かきくけこ　さしすせそ
たちつてと　なにぬねの　はひふへほ
まみむめも　や　ゆ　よ　わ　を　ん

あいうえお　かきくけこ　さしすせそ
たちつてと　なにぬねの　はひふへほ
まみむめも　や　ゆ　よ　わ　を　ん

3人

ケア マネオ
介護支援専門員・ケアマネジャー（施設名未設定）

サービス担当者会議録のワード・ファイルです。

XX月XX日サービス会議録.docx

ワード

3人

多職種ネットワークの目的・効果

患者・利用者の状態（特に問題点）の
報告、質問・要望・提案

⇩

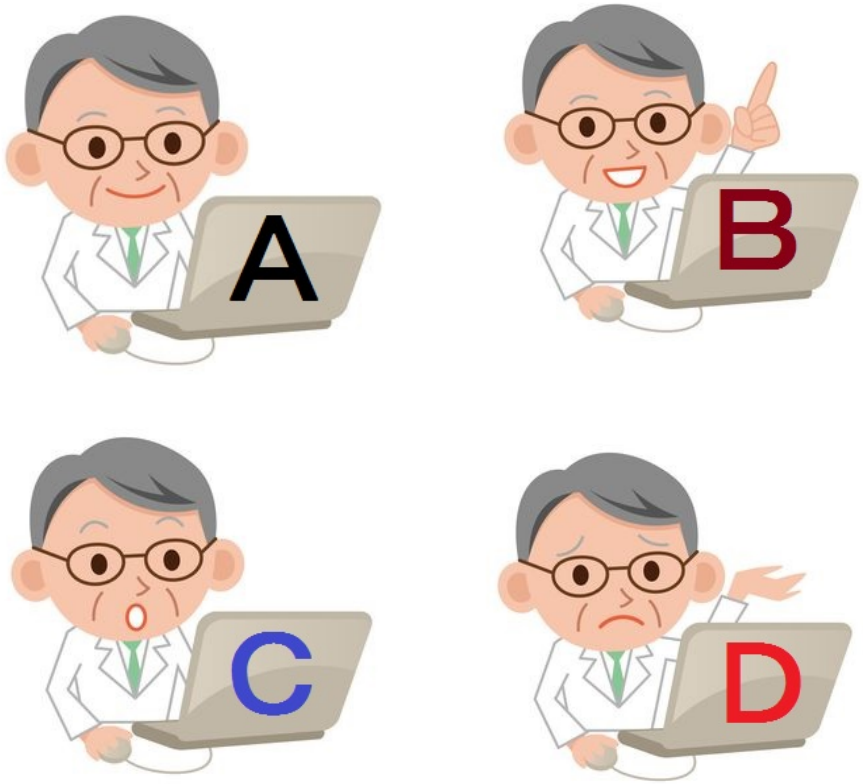
検討・助言・指示・方針決定・周知

全員参加の毎日カンファレンス
↓
迅速・きめ細かい・正確
統一した「対応」
↓
担当する患者の
在宅医療・介護の質の向上

多職種がつながる　チームができる

医師の連携（主治医・副主治医制）

MCS



複数の医師

相談できる！

留守にできる！

独りじゃない

病院と在宅がつながる

どこでも連絡帳

病院スタッフ

↕

在宅スタッフ

カンファレンス
退院前
在宅
入院前

・一体感

・即応性

医療・介護側

デモ用栃丸 花子：脳梗塞

デモ用栃丸 花子　脳梗塞

医療・介護側　患者側

11　55　一覧

メッセージを入力して下さい

送信

どこでも 三郎　1/31 23:13
医師（どこでもクリニック）

本日定時訪問しました。37・8度、脈拍104、血圧116/60,酸素96。昨日よりは幾分痰は落ち着いてきています。薬が入っているため便は緩めです。

いつでも 四郎　1/17 09:42
看護師

本日訪問時の仙骨部褥瘡の写真です。前回と変化ありませんでした。

3人

いつでも 四郎　1/17 09:40
看護師

本日定時訪問しました。37・8度、脈拍104、血圧116/60,酸素96。昨日よりは幾分痰は落ち着いてきています

3人

患者・家族参加

デモ用栃丸 花子：脳梗塞

デモ用栃丸 花子　脳梗塞

医療・介護側　患者側

一覧

メッセージを入力して下さい

送信

21:20
デモ用栃丸 花子
患者

写真です。

長島 公之　21:18
医師

床ずれはどうですか？

21:14
デモ用栃丸 花子
患者

まだ、むくんでいます。

患者・家族参加　タイムラインの可能性

患者・家族が最大の情報源

別居の家族が患者の状態を把握

災害時の安否確認・連絡手段

患者・家族への指導・支援・フォロー

糖尿病重症化予防

在宅リハビリテーション

特殊な薬剤・治療後のフォロー

グループ

地域の多職種の交流・情報交換（電子会議室）

グループ

所属するグループ一覧

グループ

地域の多職種の交流・情報交換（電子会議室）

自分の施設のスタッフ連絡網

自分の施設 ⟷ 地域の施設・多職種

電話・FAX・郵送・対面会議より

安い・早い・手間が少ない

在宅医療・介護連携推進事業の具体的取組

- （ア）地域の医療・介護の資源の把握
- （イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- （ウ）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
- （エ）医療・介護関係者の情報共有の支援
- （オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援
- （カ）医療・介護関係者の研修
- （キ）地域住民への普及啓発
- （ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

地域多職種の会議が必須　費用・多忙の壁

↓

「MCSによる電子会議」で補完

１対１のやりとり（つながり）

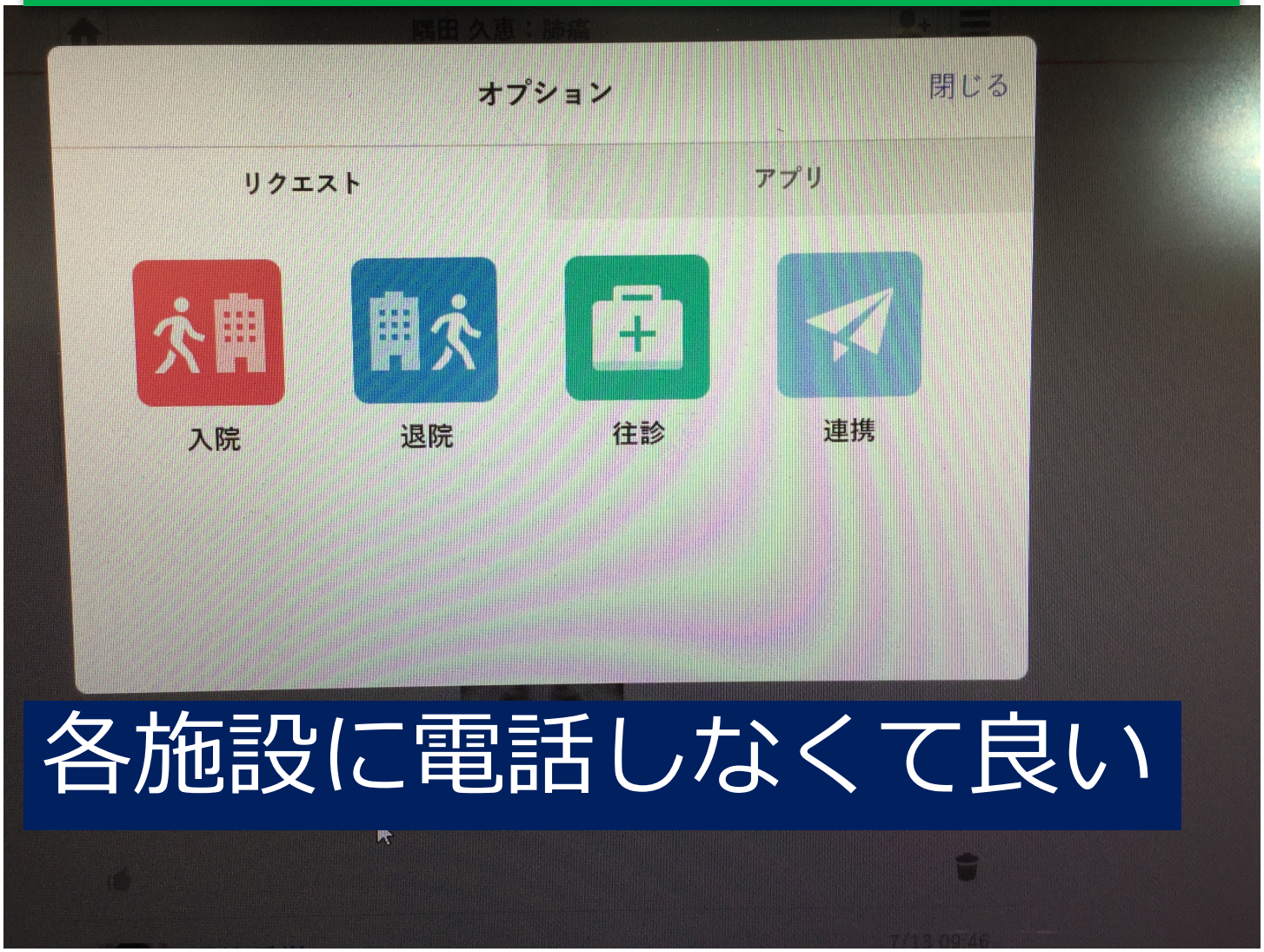
メールと同じように、
1対1のやりとりができる

ファイルの添付も可能

主治医にだけ伝えたい

リクエスト機能

入院・退院・往診・連携の一括依頼



各施設に電話しなくて良い

どこでも連絡帳　利用者アンケート結果

多職種間の情報共有が容易になった		96%
多職種の意見を聞けるので、自身の勉強にもなる		84%
いつでも患者の情報を閲覧、発信できる		76%
連絡がとりやすくなった		64%
気軽に書き込みできる		56%
システムの操作が簡単で、使いやすい		52%
画像や検査データーを簡単に送れるので、便利		52%

災害・停電時の連絡網として有用

平成27年9月　関東・東北豪雨

災害時の連絡網として有用

平成27年9月　関東・東北豪雨
→停電・交通遮断

「どこでも連絡帳」を使い

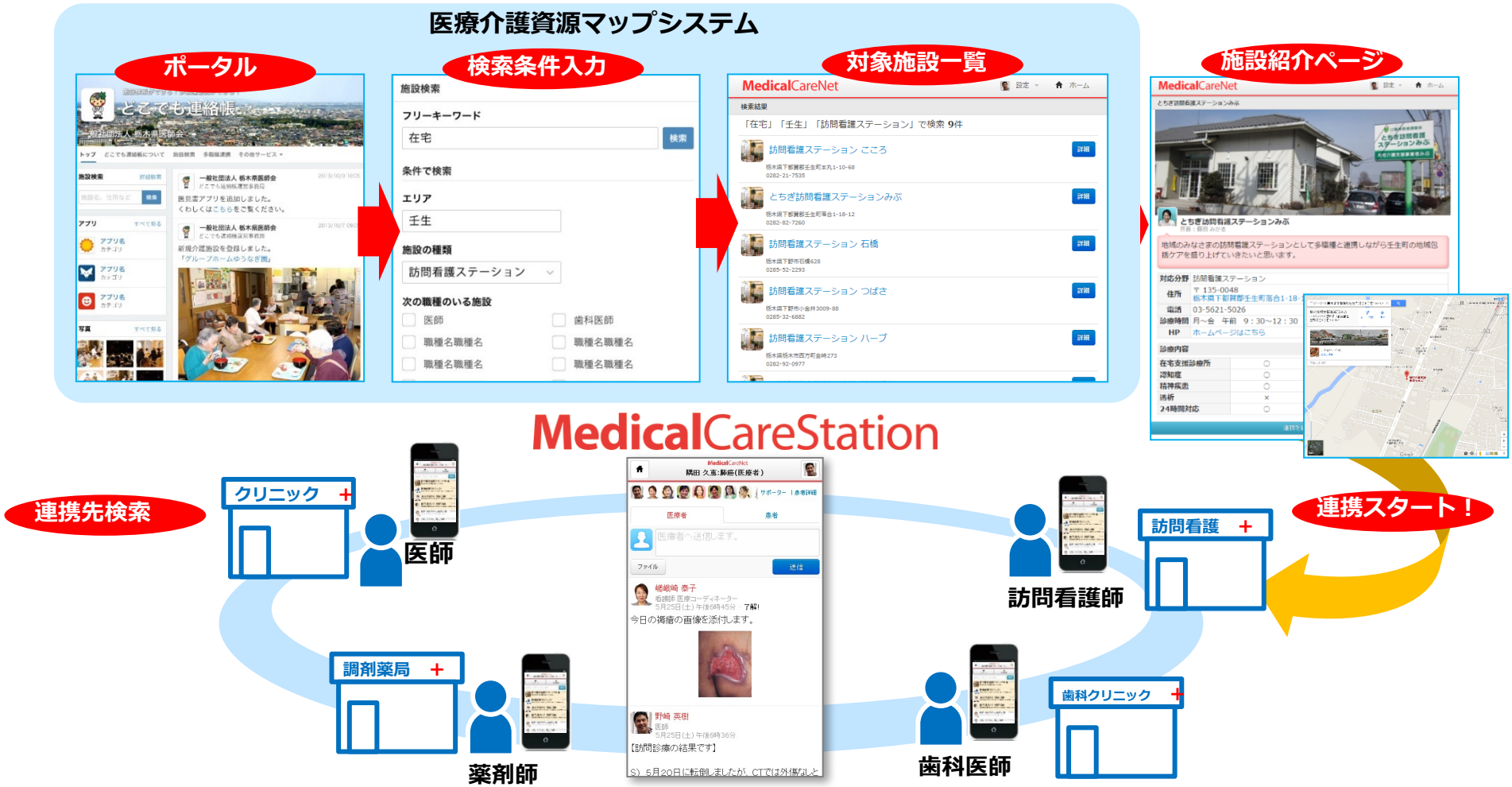
・地域の情報共有
　各施設の状況、在宅酸素業者の情報

・患者の情報共有
　各職種からの情報

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

地域の医療機関、介護事業所等の住所、機能等を把握し、これまでに自治体等が把握している情報と合わせて、リスト又はマップを作成、活用する。

MCSと連携できる医療介護資源検索・資源マップ



MCS連携医療介護資源マップの導入

栃木県
全域版

宇都宮市版

小山市版

栃木市版

壬生町版

市版

町版

検索 → 直結 → 連携

セキュリティ

厚労省ガイドラインに従う

- ルールを作る
- 教育を行う
- チェックする

医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第5版（平成29年5月）

厚生労働省のサイト
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000166275.html

・ガイドライン　第5版（PDF：1,674KB）
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000166260.pdf

・第5版に関するQ&A
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000166272.pdf

SNS　の利用について

１）「ガイドライン」には、ＳＮＳについての記載なし

２）「Ｑ＆Ａ」に記載あり

Ｑ－５
SNS で患者情報をやり取りする場合、ガイドライン上講じるべき対策はあるか。
A
SNS（Social Networking Service）において患者の医療情報を取り扱う場合、当該サービスは医療情報システムに該当し、ガイドラインの基準を満たす必要があります。
SNS には、セキュリティが十分に確保されていないサービスもあることから、一般社団法人保健医療福祉情報安全管理適合性評価協会（HISPRO）が公表している「医療情報連携において、SNS を利用する際に気を付けるべき事項」を参考に、適切な対策を講じてください

HISPRO　「医療情報連携において、SNS を利用する際に気を付けるべき事項」
http://www.hispro.or.jp/open/pdf/SNS_RiyouCheckJikou_20160126.pdf#toolbar=0

http://dokoren.jp/

栃木県統一　医介連携ネットワーク　どこでも連絡帳

どこでも連絡帳　運用ポリシー及び各書式（平成29年7月26日現在）

どこでも連絡帳　運用ポリシー（2017/7/26版）

各様式

1）利用申込書（別紙様式1）PDFファイル
2）施設又は組織誓約書（別紙様式2）　PDFファイル
3）従事者登録変更通知書（別紙様式3）　PDFファイル
4）業務情報保持に関する誓約書（別紙様式4）PDFファイル
5）個人情報使用同意書（別紙様式5）　PDFファイル
6）管理台帳の内容　PDFファイル
7）どこでも連絡帳利用上の留意事項　PDFファイル

どこでも連絡帳の目的

- どこでも連絡帳の目的は、地域包括ケアに関わる多職種及び患者・家族の間で、ICTを用いたコミュニケーションを行うことで、人と人の連携を深め、地域の医療・看護・介護の質を向上させ、安全性を高め、最終的には、地域包括ケアシステムの構築と発展に貢献することである。

どこでも連絡帳の位置付け

- どこでも連絡帳はコミュニケーションのための連絡手段であり、診療・看護・介護等の記録ではない。
- どこでも連絡帳は、「顔の見える関係」を基盤とした上で、従来の連絡手段を補完・補強する形で利用する。

他の連絡手段との使い分け

- 状況に応じて、電話、FAX、面談など他の連絡手段との使い分けや併用を行う。
- 特に、緊急の用件では、どこでも連絡帳のみの連絡は行わないで、電話を利用する。

どこでも連絡帳HP　多職種の皆様へ

・他の連携方法との使い分けや併用
　　急ぐときは電話で
　　書類が必要なら紙で
　　デリケートな内容は対面で
・利用機器とパスワードの管理
・携帯端末のセキュリティ対策
・利用機器の紛失・盗難の際の対応
　　事務局への連絡
　　→運営会社で利用停止処置

安全なMCSへの引っ越しを薦める

現在　利用中
メール
LINE

引っ越し

メディカルケアステーション

両面作戦で　広げる・深める

- 「グループ」で広く多職種をつなげる

多職種の様々なグループを作り、連絡網として使う
MCSに慣れる
「顔の見える関係」作りの補完

- 「患者TL」は目標を決めて深める

モデル施設（ニーズがある所）少数から始める
モデル施設が地域普及の核となる
医師会・行政が支援
あせらず　じっくりと

「医療介護専用SNS」が目指すもの

地域包括ケアシステムの情報連携基盤
コミュニケーション基盤

・どこでも
・いつでも
・だれでも
安全に

職種・施設・制度
地域・システム
縦割りの
垣根を越えて

つかえる→つながる

日本中の多職種がつながる

全国医介連ネットワーク研究会
http://www.ikairen.net/

全国医療介護連携ネットワーク研究会

- トップ
- ビジョン
- メンバー
- 活動報告
- お問い合わせ

MedicalCare STATION

地域包括ケアの実現

この研究会は、今後ニーズの高まる地域包括ケアの実現のため、医療分野と介護分野の連携を橋渡しするICTネッワークについて情報収集、共有、公開することを目的とした団体です。医療・介護連携時代の新たなICT活用について、患者同意、セキュリティ、運用面まで含めた広範囲な視点でのノウハウを実際に運営している医師や多職種の協力のもと集積・研究しています。

地区医介連